

ラシヤイデイン汗銭

俗称回文銭の解読と分類(3)

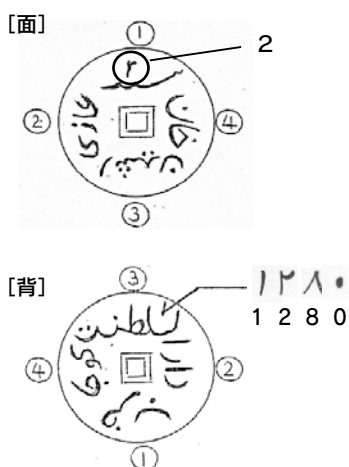
川瀬 正則

俗称「回文銭」の解読について(承前)

前号に続き、回文銭を解読していきます。

88Dの上部の数字「2」(図参照)については、未だその意味するところは確定しておりません。

相沢氏・森川氏・S H氏・アンドレア氏の四氏は、いずれも「即位二年」を意味するとしていますが、その後、改めて話し合った結果、「二代目」あるいは、「二世」を意味する可能性も生じてきました。



(図) 面背における文字の順番(クチャ銭)

なぜなら、ペルシア・アラビア語圏のコインのほとんどは、イスラム暦(回暦)として「AH何年」という表記であり、日本の様に元号毎の「何年」という表記ではありません。

とはいえ、「二代目」「二世」となると、誰が初代なのかというのが問題になり結論が出ませんでした。

また、中国の書籍では回文「2」は「折二紅銭」であるとも記載されています。しかし、この「折二紅銭」の解釈は、何かしっくりきません。

その後、Ghazy Rashidinという人物が、清の同治帝に対して反乱を起こした事。『中央アジア史』(江上波夫編)によると同氏は東トルキスタンの汗であると言いましたが、周りの国に承認されなかった事。これらの事から考えあわせると、「準国家」、或いは「別の政権」、例えば清政権に対して、「第二の政権」と表現したのではないかと? 今でいうところの「新疆ウイグル自治区」を想定していたかもしれません。このような発想で、記載された数字「2」は「二代目」或いは、「即位二年」と解読するのでは無く、別地域の意味を込めて、「自治国」を意味するのではなからう

かという意見も出てきました。

そんな中、今回新たに発見した事があります。現在、私が確認している数少ない現物の中に、大字は、正背のみしかありません。

参考拓ながら中国書籍に逆背の掲載があり、しかも年号は「1281」と判読できます。『新疆紅銭大全図説』には、「1281」「1283」という数字も記載されています。もともと、「1283」は拓本では明瞭では無く、私としてはまだ確定とはいかないと考えております。また、中には大字以外で「1281」と記載があるにも関わらず「1280」と判読できるものもあります。数字自体が細かすぎる事、紀年に与えられたスペースが狭すぎる事と、当時の鑄銭技術が、あまり優れていなかった事が、原因として挙げられるのではないのでしょうか。

これに対して、小字正背は、AH1281年で即位3年にもかかわらず、「2」が記されている。という事は、回文の「2」は、即位2年という事では無いという証拠です。ここで、年号の確認です。